

計量制度の見直し始まる

計行審に計量制度検討小委員会を設置 年内めどに基本方向、06年春にとりまとめ

計量制度の見直しが正式に開始された。7月26日に開かれた計量行政審議会(田崎雅元会長)は、検討のために計量制度検討小委員会を設置した。同委員会の下には3つのワーキンググループを設ける。小委員会の第1回会合は8月8日に予定されており、小委員会、ワーキンググループの検討をもとに年内をめどに計量行政審議会で基本方向を審議する予定。2006年春には取りまとめる。



05年第1回計量行政審議会開く

2005年(平成17年)第1回計量行政審議会が、7月26日13時から東京・霞ヶ関の経済産業省本館17階第1共用会議室で開催された。今回の審議会開催は、新しい計量行政の方向

4つの検討課題

諮問内容は①計量器の検査・検定、②消費者に身近な商品の適正計量、



③計量標準・標準物質の供給体制の整備、またトレーサビリティの確保、④その他計量単位、計量士に係る制度など横断的事項、の4点。これらについて、合理的、効果的かつ持続的な制度、体制はいかにあるべきか検討する。1993年(平成5年)以来の計量法の大規模見直しになる。制度見直しの前提には

「官から民へ」「国から地方へ」という国の行政における基本方針の変遷に合わせ、計量制度も改正されているが、必ずしもスムーズに運用されているとはいえないという認識がある。各委員は、消費者、メーカー、学識経験者などそれぞれ計量に係わる立場から、日頃計量行政に抱いている意見や、審議会に対する期待を述べた。計量制度検討小委員会を設置して検討する。小委員会の下部機関として①検定・検査制度のあり方等、②量目規制のあり方等、③計量標準・標準物質の供給等、の3つのワーキンググループ(WG)を設ける。

小委員会は8月8日に初会合

8月8日に小委員会を開き検討を開始する。以降小委員会やWGで分野別に検討し、進行状況に応じ、年内をめどに審議会で基本的方向を審議する。2006年(平成18年)春に取りまとめを行う予定。

NMIJ計測クラブ 発足会開かれる

(独)産業技術総合研究所(産総研)計量標準総合センター(NMIJ)が立ち上げた計測クラブの発足会が、7月22日に東京・丸の内産総研ベンチャー開発戦略研究セン



ター大会議室で開かれた。各部門の担当者がねらいや概要を説明した。発足式の後、懇談会が行われた。

日本国内のものづくりにおいて、国際的な競争力を確保するためにも、計量標準のトレーサビリティが求められている。しかし、工業標準として幅広く認知されているJIS(日本工業規格)制度に比べ、計量標準を担保

するJCS制度は、一般ユーザーの域に浸透しているとはいえない現況にある。そこで産総研が舵取り役となり、誰もが参加できる計量・計測に関する情報交換の場として、計測クラブが設けられた。JCS認定事業者、都道府県や大学等の研究機関からメーカー、ユーザーに至るまで、トレーサビリティの重要性を認識させ、JCS制度の利用者拡大につなげたいとしている。

式の冒頭、計測標準研究部門田中充部門長が挨拶した。計測クラブは、ユーザーがどのようなニーズを持っているかの調査と、産総研の成果普

及を目的としている。国際的な計量標準の維持供給をはかるメートル条約が広く行き渡るよう、今後力を入れていく分野である、とクラブ発足の意義を強調した。

今後はクラブ単位の活動が主になり、全体の会合は来年1月に予定されている。当日の進行は以下の通り。

▽挨拶(計測標準研究部門田中充部門長)▽NMIJ計測クラブの概要説明(同部門松本弘一副部門長)▽NMIJの国際対応について(計量標準管理センター国際計量室岡路正博室長)▽個別クラブの紹介(クラブ事務局永井聰氏)▽クラブの

計測クラブ2005年度 活動計画概要

活動例：非接触三次元測定機測定アセスメントクラブ(計測標準研究部門長計測科幾何標準研究室 勇夫科長)

◇光コムクラブ
【研究会】光コム技術は、光通信分野で必須な、より厳しい波長管理のため「光シンセサイザ」の実現のための中核技術であり、また長さ計測の高度化や通信帯の光コムを利用したファイバによる標準の伝送など、標準供給体制の効率化などにも応用可能である。この応用について技術的な研究会を開催する。また科振費(科学技術振興調整費)プロジェクト「ブロードバンドシンセサイザ」の開発「成果報告会」を7月に行った。

◇長さ計測クラブ
【技術相談、情報発信】(長さ計測科長さ標準研究室)

【情報交換】稿投影やレーザスキャンなどの技術を利用して、非接触で長さ関連量に関する技術相談に応える。また長さ関連量に関する論文や解説、政策などを会員に紹介し、データベース化する。

【研究会】年に3〜4回程度研究・研修会を開催し、会員間で長さ関連量の知識、技術、情報を共有する。講師は、テーマに応じて、NMIJや外国標準研、長さ関連量校正事業者、大学などから招聘する。

◇非接触三次元測定機測定アセスメントクラブ
(長さ計測科幾何標準研究室)

【情報交換】稿投影やレーザスキャンなどの技術を利用して、非接触で工業製品や人体形状を測定する装置が増えている。産総研ではコンソーシアムを設置し、これら装置の精度評価法を標準化するための活動を行っている。具体的には、光学式非接触三次元測定機に関する情報の収集、国内外の機関との情報交換及び交流、活動成果の普及や広報を行う。今年度はドイツの規格に合った評価法に基づく持ち回り測定を会員と行い、その問題点を洗い出す。

コンソーシアム年会費は法人20万円、個人2000円。持ち回り測定は法人会員のみ参加可能。(次号以下につづく)

実はJEMICは
日常生活に深く関わっています。